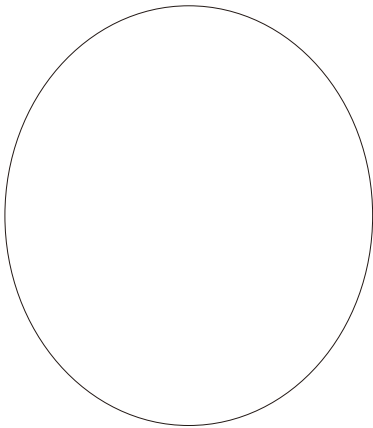


「かなパブ」に対する支援のあり方、 市民窓口担当員に対する日当の支払等で議論

会員集会開催

10月17日、会員集会が開催された。当会会館5階会議室のリアル会場に加え、各支部会館をオンラインでつなぐハイブリッド開催となった。なお、支部会館以外の場所からもZoomウェビナーでの視聴が可能とされた。



開会挨拶する畑中会長

冒頭、畑中隆爾会長の挨拶では、当会が10月8日に記者会見等で公表した、預り金の流用を理由に法人会員及び代表社員を懲戒手続に付したことについて、事件の概要と公表に至った経緯が説明された。

その上で、市民の信頼

弁護士法人かながわパブリック 法律事務所(「かなパブ」)に対する 支援のあり方について

2023年3月の当会臨時総会で決定された、公設事務所「かなパブ」に対する家賃相当額の金銭給付(家賃給付)が、2026年3月末で終了

れた。

公設事務所支援委員会の報告では、「かなパブ」の抱える主要な課題として、財政的課題と組織的課題の二つが指摘された。財政的課題としては、収益性の低い案件が多い一方、経費は比較的高水準で固定的であり、収益が安定しないことが挙げられた。

組織的課題としては、社員弁護士の後任の採用が進まず、交代要員が補充できないため現職の任期が長期化していること、採用した被養成弁護士が定着せず、過疎地派遣に至らないまま任期途中で退職してしまうこと等が挙げられた。

その上で、時間的でない家賃給付の継続が財政的課題の解決に極めて重要であり、財政的課題の解決が、社員弁護士の待遇改善など組織的課題の解決につながるとの認識が示された。

会場からは、社員弁護士の交代要員が見つからず、被養成弁護士の採用も難しい現状を危惧し、当会としてどのように改善していくか、という観点からの質疑が多く上がった。

また、社員弁護士の負担軽減や、人材の流動性を確保する実効性ある方

策を採るため、家賃給付にどこまで支援助の拡大を求める意見も上がった。公設事務所支援委員会に示される予定である。

本会での意見や財務室

公益活動ポイント等検討ワーキング チームによる検討に関する経過報告

6月の当会通常総会において、分担金制度は維持されることになった。しかし、同総会において、現行制度の公益活動ポイント対象が不十分であるとの指摘や、分担金の最大額12万円という金額の

妥当性に疑問を呈する意見が上がった。このことも踏まえ、現在、公益活動ポイント等検討ワーキングチーム(WT)において進められている検討の枠組みや検討内容が報告された。

会員集会の様子

WTは、昨年度の執行部により、2月1日に立ち上げられた。今回の報告は、4月30日、10月2日に続く、3回目の報告となった。

今後、当会の各委員会等に対する「公益活動・委員会活動等分担金の再

市民窓口担当員などに対する 日当の支払について

極めて負担が重い一方、弁護士自治との関係から非常に重要な業務について、担当者の負担感の軽減や制度の安定的な存続のため、有償化を検討すべきではないかとの問題意識から、特に市民窓口担当員に対する日当5000円の支給の是非について話し合われた。

執行部からは、当会の主要委員会に対する照会結果等が報告された。主要委員会からの賛成意見としては、会務の内容と特殊性、会務の果たす役割(会員の担当者負担、有償とすることにより生じる弊害の観点から検討すれば、日当5000円ではなく1万円でも良いのではないかという意見が紹介された。

他方で、市民窓口業務は弁護士自治の根幹に関わる職務であり、報酬支給に馴染まないという反



神奈川県のアウトラインと天秤をモチーフにした神奈川県弁護士会のロゴマークです。

山ゆり

ストレスとうきうきか。これは、重要なテーマである▼現代は、ストレス社会のご時世である。その発散方法を習得することは、弁護士業務上も大切な事である。手札は、多い方が良いのかもしれないが、私は温泉一筋、温泉一本主義である▼温泉には種々の効果があるとされている。典型的には、薬理効果(温泉の成分を吸収することで期待できる効果効能)だが、温泉の転地効果(日常生活とは異なる環境下に身を置くことで身心が共に安らぐという効果)も重要である▼掘削技術が発達した現在、お金さえかければ、温泉はどこでも湧くと言われていた。ボーリング掘削をし、まだ熱成していない赤子の源泉を無理やり動力で吸い上げる大都会の温泉施設(掘削泉)と、長い年月をかけて地中奥深くから多くの鉱物とぶつかりながら自分の力だけで湧き上がる熱成された源泉を生のまま提供する山奥の温泉施設(自噴泉)、どちらが好みだろうか▼今年は、何万キロ走ったかな。次は、古遠部温泉にでも行こうか。都会の喧騒を離れ、誰にも知られることなく、山奥にひっそりと佇む一軒宿の温泉旅館で、ぼーっとしてみたいかがだろうか。

(中込 竜司)

～海を越えたハルモニたち～

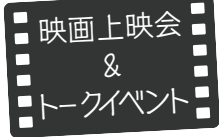
アリラン ラプソディ

金聖雄映画監督とハルモニたち

9月20日、秋空の土曜日の午後、当会会館5階で、当会戦後80年企画として、映画「アリラン ラプソディ」の上映会とトークイベントが開催された。

本編上映後のトークイベントは、金聖雄監督のほか、華やかな色とりどりのチマチョゴリに身を包んだ、映画の主人公でもあるハルモニたちの参加も得て、賑やかに執り行われた。

戦争に翻弄され、生きる場を求めて幾度も海を往来し、たどり着いた川崎の地で、細やかに、たくましく生きてきた在日



一世のハルモニたちの姿に、カメラは25年もの歳月寄り添っている。同じ地に事務所を構え、気が付けばもう30年近くも弁護士を生業にしてきた私には、様々な想いの去来する一本であった。

私の感想は、二つだ。一つは、私たちの加害者性である。太平洋戦争という、原爆投下や市街地への空爆、そして、もちろん沖縄の地上戦など、とかく米国との関係で被害者としての側面を意識しがちだが、先立つ对中国戦から始まり、アジアに対する関係での日本(国民)の加害者性は後ろに放置されてしまう。

しかし、歴史を知れば、被害者である私たちの加害者性もまた戦争の両輪となっていることが、否が応にも目に入ってきた。

を得ない。

二つ目は、一つ目の認識とも共通する前提に係るものだが、右記のように、戦後80年目の今年、戦争の記憶や歴史の事実を、これからどのようにして生きた知恵として継承でき得るのか、真剣に考えなければならぬ時期にきているという想いである。これという名答もないのだが、笑顔のハルモニたちから元気をもらいながら、そのために、一層大切な急所と思われる。

どこまでも間抜けな私は、映画を観る前、なぜ女性ばかり出てくるのだろう、男たちは一体どこに行ってしまったのかなどと馬鹿なことを漠然と考えていたのだが、この駄文を読まれる方にはお分かりになるだろうか。

(会員 本田 正男)

裁判員裁判のための法廷技術ワークショップ

型から

自由になるために、

型を学ぶ

9月27日・28日の2日間、当会会館において裁判員裁判のための法廷技術ワークショップが開催された。これを受講することが、国選の裁判員裁判担当者名簿登載のための必須要件であり、裁判員裁判を担当するためには避けて通れない「関所」ともいべき研修である。

9月27日・28日の2日間、当会会館において裁判員裁判のための法廷技術ワークショップが開催された。これを受講することが、国選の裁判員裁判担当者名簿登載のための必須要件であり、裁判員裁判を担当するためには避けて通れない「関所」ともいべき研修である。

講師には、刑事法廷弁護技術の草分けである高野隆弁護士(第二東京弁護士会)による熱い講義

2日目も、「反対尋問 全体講義」「模擬主尋問」「反対尋問Ⅰ実演」「反対尋問Ⅱ実演」「最終弁論

この研修は、裁判員裁判に必要な法廷技術の「型」を学ぶことを目的とするものであると思われたが、最後にデモを行った高野弁護士の弁論は、その「型」からも自由な、説得力のある素晴らしいものであった。

「型があるから型破り、型がなければ単なる形無し」とは、十八代目中村勘三郎の金言である。「型」に嵌まらない、自分らしい法廷活動ができるようになるために、まずは「型」を身に付けることの必要性を感じた研修であった。

(会員 須山 園子)

刑事弁護修習の最前線

～20年目の司法修習～

連載を終えるに当たって (下)

会員 妹尾 孝之

前回述べたとおり、現在、和光の研修所での修習は、導入修習が3週間、実務修習終了後の集合修習が2か月弱と期間が限られている。そのような中で、実務修習の指導の一端を担う弁護士会・会

員にお願いしたいのは、研修所での教育ではなかなか伝えることが難しい部分である、実務上の知

識・知恵を修習生に伝えることを特に意識していただきたいということである。かつてのように弁護修習に3か月程度の期間が取られていれば、特に意識しなくても指導担当弁護士や周囲の弁護士から自然とある程度のものが伝わっていたかもしれないが、現在の2か月弱という修習期間では、意識的・効率的に伝えなければ中途半端な状態に

終わってしまうおそれがある。そして、その場合、実務に出てからそういった知識・知恵を増やしていく「核」が心もとないということになるのであり、実務上の常識やセンスといったものが十分に育たないことにつながるのではないかと考えている。

研修所教官は日々修習生のために奮闘しており、修習生も(個人差はあ

あるが)修習に食らいつき、1年後には大きく成長した姿を見せてくれる。そして、実務に出た後は、各人が研鑽に努めて様々な能力を発揮して活躍している。しかしながら、司法修習という法曹としての基盤を作る期間が短くなったことで無理が生じている部分があることも感じており、後進の育成について、各人がこれまで以上に心を配

る必要があると思われる。教官の任期を終えて半年という時期に本連載の機会を得たことで、自分の記憶が比較的新鮮なうちに現在の修習の内容について一通りまとめることができた。貴重な機会を頂けたことに感謝を申し上げます。

本連載が続いている間に約4年が経過し、その間、当会からも3名の刑事弁護教官が出た。本連載の内容にはアップデートが必要な部分も多々あると思われるので、適当な時期に後輩教官から「改訂版」がなされることを期待して筆を置きたい。

紛争解決センター開設30周年を迎えて

講師3名に対する質疑応答の一場面

当会紛争解決センター（以下「当センター」）は、平成7年3月に民間ADR（裁判外紛争解決手続）機関として発足し、今年開設30周年を迎え、10月24日にその記念イベントを、当会会館にて開催した。

今回の記念イベントでは「災害ADR」を取り上げ、他会に所属する3名の弁護士を招へいし、災害ADRの果たす役割や実際に災害ADRを運用したときの体験談等についてお話をうかがった。災害ADRとは、災害を起因とする紛争に関して、一般の和解あっせん手続においてかかる各手数料の減免等を行う制度である。幸いにして、これまで神奈川県では災害ADRを適用する災害に見舞われたことはないが、近い将来この災害ADRを活用する時が来る

と予想される。本イベントを通じて、その準備としてのマニュアル作りや実際の事案への対応など、大変参考になる話を聞くことができたので、今後、当センター運営委員会としてしっかりと準備しておこうと思う。

また、今回30周年に合わせ「紛争解決事例集・追補版」を発行するに至った。当センターは、これまで数多くの民事紛争の解決に努めてきており、20周年の際に発行した「紛争解決事例集」とともに、是非ご参照いただきたいと思う。

最後に、30周年を迎えることができたのは、会員の皆様のご理解とご協力のおかげであり、心から感謝申し上げます。今後とも当センターをご活用いただきたい。（紛争解決センター運営委員会委員長 廣瀬 和之）

横浜に赴任し12月で2年が経つ。実は、昨年8月号にも寄稿し、恥ずかしながら自身の目標を宣言した。「傍聴記など事件の背景を掘り下げる記事を書き、読者の『知りたい』に応えられる記事を発信していきたい」と。

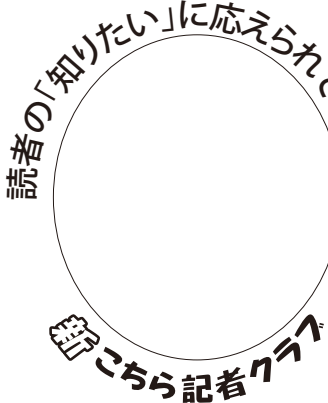
夫が妻を殺害したふたつの裁判を傍聴すると、夫2人がそれぞれ「周りに頼れなかった」と述べたのが印象的だった。また、どちらも一時は公的支援につながりサービスを利用したのに、

トニースを書くわけだが、再び似た事件が起き、無力感を感じていた。どうすれば事件を防げるのか。男性介護者の研究をしている大学教授に話を聞き、11月4日に傍聴記と合わせて紹介した。

教授は「介護する側」を支える重要性を指摘。『その立場』になったら、みんな同じ。簡単に「SOSを出せばいいの」とは考えてほしくない」として、「誰かが困難さを理解して寄り添ってくれたら、『頼ってもいいんだ』と気持ちが変わるかもしれない」と教えてくれた。

自分は、読者の「知りたい」に応えられているだろうか。これからも深掘り記事を書き続けていきたい。

（朝日新聞 加藤 美帆）



この1年で印象深かったのは、「老老介護」を背景とする事件が相次いでいることだ。高齢化が進むなかとも人ごととは思えなかった。今年10月、相模原市の自宅で妻を殺害した夫に横浜地裁が執行猶予付き有罪判決を言い渡した。夫は84歳。80歳の妻を介護していた。その約3週間前、川崎市では91歳の夫を殺害した容疑で86歳の妻が逮捕された。7月には横須賀市で介護中の妻（81）を殺害した夫（85）に対する判決があった。

妻の容体がかえって悪化して、被告が心中へ追い込まれていったように感じた。逮捕や裁判のたびに、自分は何度も「夫が逮捕された」「判決が言い渡された」とストーリー

常議員会

「常議員会のあした」

会員 徳久 京子（51期）

飯田信也副議長から12月号の原稿を命じられた趣旨は、常議員会オタクの私に、常議員立候補を募る原稿を書けということなので、今回は「常議員会のあした」について書こうと思う。

常議員の定員が35から40となった平成27年度以降、本年度までの11年間、定員を満たしたのは7回、うち3回は選挙だった。その後立候補が低調となり、公益活動等委員会や理事者経験者の働き

かけて定員に達した年もあった。昨年は立候補が32人しかなかったため再選挙となり、今年度も38人と定員割れである。

当会は常議員会における女性会員割合を30%とすることを目標としているが、立候補が定員に満たない現状をどうしたものかを探るべく、昨年度常議員経験者アンケートが行われた。アンケートからは、従来「期枠」で選出されてきた常議員だが、60期以降になると期ごとの人数も多く、コロナ禍により同期会も減り、期枠に頼るだけでは常議員を輩出することが難しくなっていることがうかがわれ

た。一方、常議員になったきっかけとして、同期や先輩に「声を掛けられて」というのは意外と多いことも分かった。

ちょうど忘年会、新年会シーズンである。是非同期・委員会・先輩・後輩で声を掛け合って次年度常議員に立候補していただきたい。

アンケートでは常議員会のあり方についても多様で熱意ある意見が寄せられている。報告書は、会員HPの当会活動欄に掲載されているので、是非一読いただきたい（当会ホームページ会員専用サイトvお知らせv当会活動v常議員経験者アンケート集計結果v常議員経験者アンケート報告書【2025年10月29日掲載】）。

理事者室

奮闘する理事者たち

副会長 飛田 憲一

今期執行部が始まってから8か月。当会が膨大な業務を処理していることを日々実感し、事務局に感謝する毎日である。

さて、今回は執行部のメンバーを紹介させていただきます。

まず畑中隆爾会長。冷静沈着、明晰な頭脳で執行部を引っ張ってくれている（起案能力が異常に高い）。各種懇親会では、渾身の謎かけを披露し、理事者室でもボソッと面白いことを言ってくれる

（聞えないことも多い）。長谷山尚城筆頭副会長は、持ち前の元氣と明るさで執行部を鼓舞する（細かいことを気にしない能力が異常に高い）。最近担当業務の関係で特に活躍することが多い。石塚陽子副会長は、弁護士会の屋台骨である会計を担当し、膨大な業務に追われながらも、いつも冷静に他の副会長にツッコミを入れ、おそれられている（執行部を引き締める能力に定評がある）。激務で栄養が不足ぎみという噂がある。

村上慶一郎副会長は、柔らかな雰囲気と武器に難しい会務もそつなくこなし、特に支部との架け

橋として重要な役割を担っている（「むらつくま」という愛称で親しまれ、可愛さには定評がある）。新倉武副会長は、大所高所からの分析的な意見を述べて会議で活躍することが目立つ。難しい課題も粘り腰で切り抜ける（粘り強い弁論に定評がある）。

筆者は笑い声の大きさに定評があり、よくうるさいと注意を受ける。執行部は優しい方ばかりで、いつも和やかな雰囲気なので本当にありがたい。

あと4か月、執行部一丸となって全力で走り抜きたい。

山梨県弁護士会マスコットキャラクター「こびっと」と執行部

＊かなパブ最前線＊

都市型公設

サマーインターンツアー

初開催！

会員 重野 裕子

8月から9月にかけて、法科大学院などの学生を対象に、全国の都市型公設事務所のうち7事務所合同のサマーインターンツアーを開催した。

なぜ「ツアー」かというと、1つではなく複数の事務所を巡るからである。都市型公設といっても、それぞれ地域も規模も特色も異なる。市民の駆け込み寺的な存在であり、扶助事件や困難案件が多い点は共通するが、かなパブのように過疎地派遣を主とするところ、地域連携に注力しているところ、外国人対応の特殊部門があるところ、後見業務を組織化して取り組んでいるところなど、様々である。

昨今、大手事務所や企業でのインターンを機に早々に就職先を決める若手が増え、登録先も、地方より都市部に、都市部の中でも東京に偏りがちである。一方、司法過疎地の公設事務所では、赴任希望者が減り、任期を終えた弁護士が帰れない事態も生じている。

しかし、弁護士は、日本全国どこでも必要とされ、また、業務が幅広く、それゆえに大変でもあり

面白くもある仕事である。学生のうちに幅広い進路に目を向け、地方での活動やパブリックロイヤーにも興味を持ってもらいたい、そのために町弁の業務や公設事務所の活動に触れる機会を作り、ちよつと面白そう企画にして発信してみよう、そんな目的で開催に至った。

かなパブでは8名を受け入れたが、4名は広島や岡山、3名は多摩の事務所との組合せとなり、地方や都心以外の地域での活動に興味がある学生が多かった。

依頼者宅や施設に出向く案件や、障碍を抱えている方の案件など、コスバ・タイパは良くない案件も経験してもらったが、困りごとを抱えた市民が弁護士につながる大切さを感じたという感想や、業務以外にも、ひまわり公設の話が気軽に聞けて目標が明確になったという感想などが寄せられた。

この企画の参加者から、将来、1人でも2人でも、地方で活躍する弁護士が生まれれば幸いである。

面づくもある仕事である。学生のうちに幅広い進路に目を向け、地方での活動やパブリックロイヤーにも興味を持ってもらいたい、そのために町弁の業務や公設事務所の活動に触れる機会を作り、ちよつと面白そう企画にして発信してみよう、そんな目的で開催に至った。

かなパブでは8名を受け入れたが、4名は広島や岡山、3名は多摩の事務所との組合せとなり、地方や都心以外の地域での活動に興味がある学生が多かった。

依頼者宅や施設に出向く案件や、障碍を抱えている方の案件など、コスバ・タイパは良くない案件も経験してもらったが、困りごとを抱えた市民が弁護士につながる大切さを感じたという感想や、業務以外にも、ひまわり公設の話が気軽に聞けて目標が明確になったという感想などが寄せられた。

この企画の参加者から、将来、1人でも2人でも、地方で活躍する弁護士が生まれれば幸いである。



弁護士の多様性をイメージしたインターン生募集のチラシ

10月23日、当会会館において、裁判官評価検討・励・慰労会が行われた。当日は退官・現役非常勤裁判官を含めた23人の出席者があった。橋場一敏委員長、副委員長の司会により進行が行われ、委員会担当の村上慶一郎副会長の挨拶、日弁連弁護士任官等推進センター副委員長でもある三木恵美子

10月23日、当会会館において、裁判官評価検討・励・慰労会が行われた。当日は退官・現役非常勤裁判官を含めた23人の出席者があった。橋場一敏委員長、副委員長の司会により進行が行われ、委員会担当の村上慶一郎副会長の挨拶、日弁連弁護士任官等推進センター副委員長でもある三木恵美子

10月18日、当会会館において囲碁大会が開催された。大会参加者は囲碁好きの当会会員8名で、持ち時間40分、棋力に応じたハンデ戦(棋力差を考慮し、下手が最初に石を多く置いて対局するもの)で各人計4局の対局を行った。大会は午前11時に開始し、昼食休憩を挟みつつ、午後5時過ぎまで行った。想定では1局に1時間30分程度かかる見込みであったが、久々の大会の喜びもあってか、1時間かららずに終わる対局も多く、多い会員ではインストラクターによる指導も

退任慰労の花束を贈られる村上会員(中央左)と櫻井会員(中央右)

催の下で非常勤裁判官激励・慰労会が行われた。当日は退官・現役非常勤裁判官を含めた23人の出席者があった。橋場一敏委員長、副委員長の司会により進行が行われ、委員会担当の村上慶一郎副会長の挨拶、日弁連弁護士任官等推進センター副委員長でもある三木恵美子

盤面に向かって真剣に考えこむ当会会員

今回の退官したのは、いずれも4年間非常勤裁判官として職務を行った村上貴久会員と櫻井遥一会員である。村上会員からは、裁判官から非常に丁寧なアドバイスを受けたことや手続法の重要性を再認識できた貴重な経験をした等の話があり、また櫻井会員からは、裁判所の存在が身近に感じられるようになったことや、対立関係が激しい当事者間において紛争解決できた時にやりがいを感じられた等の話があった。

続いて、現役非常勤裁判官である天野康代会員、渡邊禎会員、山辺直義会員から、それぞれ非常勤裁判官の職務報告が行われ、面白さがあることや仕事自体楽しいこと等本音トークが炸裂していた。

その後、10月に非常勤裁判官に任官したばかりの坂本正之会員、松野さやか会員、平賀孝治会員からも挨拶が行われ、特

今回の退官したのは、いずれも4年間非常勤裁判官として職務を行った村上貴久会員と櫻井遥一会員である。村上会員からは、裁判官から非常に丁寧なアドバイスを受けたことや手続法の重要性を再認識できた貴重な経験をした等の話があり、また櫻井会員からは、裁判所の存在が身近に感じられるようになったことや、対立関係が激しい当事者間において紛争解決できた時にやりがいを感じられた等の話があった。

続いて、現役非常勤裁判官である天野康代会員、渡邊禎会員、山辺直義会員から、それぞれ非常勤裁判官の職務報告が行われ、面白さがあることや仕事自体楽しいこと等本音トークが炸裂していた。

その後、10月に非常勤裁判官に任官したばかりの坂本正之会員、松野さやか会員、平賀孝治会員からも挨拶が行われ、特

4戦全勝優勝 鈴木 質

係が激しい当事者間において紛争解決できた時にやりがいを感じられた等の話があった。

続いて、現役非常勤裁判官である天野康代会員、渡邊禎会員、山辺直義会員から、それぞれ非常勤裁判官の職務報告が行われ、面白さがあることや仕事自体楽しいこと等本音トークが炸裂していた。

その後、10月に非常勤裁判官に任官したばかりの坂本正之会員、松野さやか会員、平賀孝治会員からも挨拶が行われ、特

係が激しい当事者間において紛争解決できた時にやりがいを感じられた等の話があった。

続いて、現役非常勤裁判官である天野康代会員、渡邊禎会員、山辺直義会員から、それぞれ非常勤裁判官の職務報告が行われ、面白さがあることや仕事自体楽しいこと等本音トークが炸裂していた。

その後、10月に非常勤裁判官に任官したばかりの坂本正之会員、松野さやか会員、平賀孝治会員からも挨拶が行われ、特

10月18日、当会会館において囲碁大会が開催された。大会参加者は囲碁好きの当会会員8名で、持ち時間40分、棋力に応じたハンデ戦(棋力差を考慮し、下手が最初に石を多く置いて対局するもの)で各人計4局の対局を行った。大会は午前11時に開始し、昼食休憩を挟みつつ、午後5時過ぎまで行った。想定では1局に1時間30分程度かかる見込みであったが、久々の大会の喜びもあってか、1時間かららずに終わる対局も多く、多い会員ではインストラクターによる指導も

含めて6、7局をこなし、まさに囲碁三昧の一日であった。

結果は、4戦全勝の鈴木質会員が優勝し、準優勝は3勝1敗の成績を残した稲垣孝宣会員であった。

優勝した鈴木質会員は、大会の約2週間前に手術を終えたばかりだったが、病み上がりであると感じさせない力強い基を打っていた。好きなことに勝る良業は無いということなのだろう。

今回の大会は、来年2月頃に弁護士協同組合の主催で、同日に将棋大会も行うという大規模なものになる予定で、豪華入賞品を用意が豪華ゲストを呼ぶことを計画している。

また、囲碁クラブでは平日夜に月1回当会会館で活動している。活動には、ほぼ毎回インストラクターを招き、指導基を受けやすくするなど、初心者参加しやすい環境を用意している。もし、囲碁クラブの毎月の活動に、この記事を読んで興味を持たれた会員、あるいは囲碁熱が再燃したという会員がいましたら、幹事の三浦修会員まで是非ご連絡下さい。

(会員 木南 公成)

含めて6、7局をこなし、まさに囲碁三昧の一日であった。

結果は、4戦全勝の鈴木質会員が優勝し、準優勝は3勝1敗の成績を残した稲垣孝宣会員であった。

優勝した鈴木質会員は、大会の約2週間前に手術を終えたばかりだったが、病み上がりであると感じさせない力強い基を打っていた。好きなことに勝る良業は無いということなのだろう。

今回の大会は、来年2月頃に弁護士協同組合の主催で、同日に将棋大会も行うという大規模なものになる予定で、豪華入賞品を用意が豪華ゲストを呼ぶことを計画している。

また、囲碁クラブでは平日夜に月1回当会会館で活動している。活動には、ほぼ毎回インストラクターを招き、指導基を受けやすくするなど、初心者参加しやすい環境を用意している。もし、囲碁クラブの毎月の活動に、この記事を読んで興味を持たれた会員、あるいは囲碁熱が再燃したという会員がいましたら、幹事の三浦修会員まで是非ご連絡下さい。

(会員 木南 公成)

含めて6、7局をこなし、まさに囲碁三昧の一日であった。

結果は、4戦全勝の鈴木質会員が優勝し、準優勝は3勝1敗の成績を残した稲垣孝宣会員であった。

優勝した鈴木質会員は、大会の約2週間前に手術を終えたばかりだったが、病み上がりであると感じさせない力強い基を打っていた。好きなことに勝る良業は無いということなのだろう。

今回の大会は、来年2月頃に弁護士協同組合の主催で、同日に将棋大会も行うという大規模なものになる予定で、豪華入賞品を用意が豪華ゲストを呼ぶことを計画している。

また、囲碁クラブでは平日夜に月1回当会会館で活動している。活動には、ほぼ毎回インストラクターを招き、指導基を受けやすくするなど、初心者参加しやすい環境を用意している。もし、囲碁クラブの毎月の活動に、この記事を読んで興味を持たれた会員、あるいは囲碁熱が再燃したという会員がいましたら、幹事の三浦修会員まで是非ご連絡下さい。

(会員 木南 公成)

デスク 青山 良治
記者 大河内万紀子
岡田 忠智
田鍋 智之
中込 竜司
中島 悠介
若山 桃子

今年も、早や12月。ロシアによるウクライナ侵攻や、イスラエルによるガザ侵攻等、力で解決を図るような事態が頻発している気がしてなりません。

今年の人権擁護大会は、12月、長崎で開催。戦争をテーマとするものもあったようで、個人でできることを考えていきたいですね。

含めて6、7局をこなし、まさに囲碁三昧の一日であった。

結果は、4戦全勝の鈴木質会員が優勝し、準優勝は3勝1敗の成績を残した稲垣孝宣会員であった。

優勝した鈴木質会員は、大会の約2週間前に手術を終えたばかりだったが、病み上がりであると感じさせない力強い基を打っていた。好きなことに勝る良業は無いということなのだろう。

今回の大会は、来年2月頃に弁護士協同組合の主催で、同日に将棋大会も行うという大規模なものになる予定で、豪華入賞品を用意が豪華ゲストを呼ぶことを計画している。

また、囲碁クラブでは平日夜に月1回当会会館で活動している。活動には、ほぼ毎回インストラクターを招き、指導基を受けやすくするなど、初心者参加しやすい環境を用意している。もし、囲碁クラブの毎月の活動に、この記事を読んで興味を持たれた会員、あるいは囲碁熱が再燃したという会員がいましたら、幹事の三浦修会員まで是非ご連絡下さい。

(会員 木南 公成)